

一般財団法人市川市福祉公社

平成 29 年度第 1 回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成 29 年 6 月 13 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11：00 分
2. 場 所： ザタワーズイースト 3F I-link ルーム 1
3. 出席者 20 名

〔委 員〕

議長 高久 悟氏

委員 四ツ屋 真由美氏

委員 村尾 薫氏

委員 鈴木 靖成氏

以上 委員 4 名

〔オブザーバー〕

高齢者サポートセンター市川第一 1 名

高齢者サポートセンター市川第二 1 名

高齢者サポートセンター市川東部 1 名

高齢者サポートセンター八幡 1 名

高齢者サポートセンター真間 1 名

高齢者サポートセンター大柏 1 名

大学准教授 1 名

訪問介護事業所 2 名

訪問介護事業所 2 名

以上 オブザーバー 11 名

〔事務局〕

常務理事 林 芳夫

事務局次長 今井 真希

訪問介護課長 長尾 容子

当該事業管理者 館山 史陽

計画作成責任者 岩瀬 裕介

以上 事務局 5 名

欠席者 高齢者サポートセンター市川東部 1 名

1.開会前

(1) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

開会にあたり定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の現状を説明

(2) 委嘱状の交付

H29 年度に委員になられた 高久 悟氏
四ツ谷 真由美氏
鈴木 靖成氏
村尾 薫氏

以上 4 名が紹介され、それぞれに委嘱状を交付した。

(3) 委員等紹介

事務局より、委員等の紹介、委嘱

(4) 仮議長、副議長の選出

会長互選まで、仮議長に高久委員が仮議長として選出された。

2.開会、会長及び副会長の選出、及び議事

(1) 会長及び副会長の選出

高久仮議長が進行し会長に：高久委員、副会長：四ツ谷委員を推す声があり、高久仮議長が委員にはかり異議なしと賛同を得て選出した。

事務局より資料の説明を行う

(2)－①サービス提供等状況報告 (H.28 年度の実績報告、H29 年 3～5 月の実績報告)

(2)－②事例発表

3.質疑応答

●サービス提供等状況報告について

<四ツ屋委員>

介護度が 4⇒3.5⇒3.7 と下がっているが、介護度が高い方が単位数が高く収益には繋がる。

<事務局>

介護度が低い利用者でも安否確認、服薬確認で一日の訪問回数が増える事も有り、ヘルパーを派遣した割には収益が上がらないが事もある。

<村尾委員>

ジャパンケアの参入で公社への影響は？

<事務局>

影響はなく、相談件数も変わっていない。定巡を利用した事のある、リピーターの CM からの相談が多い。定巡の依頼が無い CM からの相談や依頼はほぼ 0。定巡の周知、理解がまだ低い。

<鈴木委員>

定期巡回サービスの浸透していない、PRは市としても課題。

<事務局>

公社としても定巡を利用していた利用者のCMからの依頼が多く、定巡のPR不足の部分もある。

<高久議長>

インフォーマルなサービスとはどんなものがあるか？

<事務局>

配食サービスにて安否確認等がある。

(3)事例 (定期巡回利用中のM様について)

<高久議長>

介護サービスの中身が判らない方が多いと思うが利用者へは、どのようにサービスの説明・納得してもらったか教えて下さい。

また、23時に毎回ポータブルトイレ介助が追加されてコール回数はどうなりましたか？

<事務局>在宅復帰前にも、施設サービスを受けた経験があり、スムーズに納得された。

定巡の介入後も本人からのニーズも聞かれるようになった。

コール回数は23時のポータブルトイレ介助が追加されたことにより減少した。

23時にポータブルトイレに座る事で本人も安心して朝まで眠れており精神的な安定も得れている。

<四ツ屋委員>

日曜日等の空白になっている部分ではどんな対応をしていますか？

<事務局>

御家族が市内に在住しており、まめな訪問がある為、生活援助や身体介護の協力が得られている。

<村尾委員>

うまくサービスを組み立てられている。教科書的な事例だと思う。

<鈴木委員>

信頼関係はどのように構築しましたか？

<事務局>

複数の職員が訪問するが、訪問毎に適切な職員の声掛け対応がよかったのではないかと思う。

<高久議長>

日々のサービスが問われているわけですね。

●オブザーバーの方々から

<高齢者サポートセンター 市川第一>

重度化ではなく、元気になっていく事例。紹介していきたい。

<高齢者サポートセンター市川第二>

主任ケアマネ会議にて、公社定巡研修を依頼している。CM間でも定巡の話題が多くなってきている。高サポとして啓発活動に力を入れたい。在宅の垣根となる良いサービス。病院より在宅に戻されるターミナルが増えている為、定期巡回を導入するタイミング、対応のスピードも大事である。

<高齢者サポートセンター真間>

事例を聞いてサービスのイメージが出来た。施設、病院から在宅にもどる人が出来ないことを手伝ってもらうことで、自立した生活を送っている良い事例。

<高齢者サポートセンター 大柏>

相談窓口で公社の定巡を知りたいという人が来たが資料がなくホームページ出して分かった。資料があったらほしい。必要な時間は重なると思うが訪問の工夫はどのようにしているか？

<事務局>

説明時に「8時台」「9時台」と時間の幅を持たせて了解をもらっている。

<高齢者サポートセンター八幡>

地域ケア会議でも介護1、認知症で外出も多く地域住民の負担が大きい事例があり、定期巡回の利用でリズムが整えられた。高サポとしてもっと啓発していきたい。

<高齢者サポートセンター国分>

・議長がおっしゃったように、ニーズが家族と本人と違う事がある。サービス導入で、安心感を与えることが出来ていると思う。

<訪問介護事業所 1 >

CMへわかり易い言葉を使って定巡を説明していきたい。CM理解してもらう事が大事。

<訪問介護事業所 2 >

地域住民への啓発が課題である。千葉県のセミナーでも同様の問題が上がった。CM定例ケア会議に出席し、定期巡回の正しい使い方について質問を受けた。サービスの正しい使い方を説明し周知した。限られた時間の中での利用者の自立に対するアプローチの難しさを感じる(特にトイレ介助)利用者の状況、出来ることを考えて対応したい。

<大学准教授>

定期巡回のサービスがもっと広まればいい。着実に根付いてきていると感じる。利用者さんには満足度を上げて生活してほしい。

<高齢者サポートセンター 市川東部>

ネット情報で勉強してくる人が多くなってきたが、現場の情報も伝えていきたい。
利用している方、家族の声を聞いて情報発信していきたい。

4.閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

・次回介護医療連携推進会議予定 平成 29 年 9 月 12 日 (火)

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回係 岩瀬